

広島市における感染症発生動向調査結果について（2007 年）

生 活 科 学 部

は じ め に

広島市では、広島市感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、衛生研究所に感染症情報センターを設置し、市域の感染症情報を集計、解析するとともに、その結果をホームページ等により、市民、関係機関等へ提供している。

今回、2007 年の広島市における感染症患者発生状況をまとめたので報告する。

方 法

1 対象疾患

対象疾患は、国の実施要綱に示されている一類感染症（エボラ出血熱等 7 疾患）、二類感染症（急性灰白髄炎等 4 疾患）、三類感染症（コレラ等 5 疾患）、四類感染症（E 型肝炎等 41 疾患）、全数把握対象の五類感染症（アメーバ赤痢等 14 疾患）及び定点把握対象の五類感染症（インフルエンザ等 28 疾患）の合わせて 99 疾患とした。

2 患者情報の収集

全数把握対象の感染症については市内医療機関から、定点把握対象の五類感染症については定点医療機関から週単位又は月単位で、各行政区に置かれている保健センターに届出される。各保健センターは、感染症発生動向調査システムにより患者情報を感染症情報センターへ報告し、感染症情報センターでは中央感染症情報センター（国立感染症研究所）へ全市分の患者情報を報告するとともに集計処理を行った。

なお、市内の患者定点の内訳は、インフルエンザ定点（小児科定点を含む）37、小児科定点 24、眼科定点 8、性感染症定点 9、基幹定点 7 である。

3 対象期間

平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 30 日（2007 年第 1 週～第 52 週）。

結 果

1 全数把握対象疾患

医療機関から届出のあった疾患は、二類感染症は結核、三類感染症は細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症の 2 疾患、四類感染症はつつが虫病、日本脳炎、マラリア、レジオネラ症の 4 疾患、五類感染症はアメーバ赤痢、ウイルス性肝炎、急性

脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、梅毒の 8 疾患で、合わせて 15 疾患であった。一類感染症については届出がなかった。2007 年における各疾患の届出数を表 1 に示した。比較的届出数の多かった疾患（結核を除く）は次のとおりである。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

21 件の届出があり、前年の 30 件から減少した。すべて散发事例であった。月別では、9 月が 6 件と最も多く、7 月から 10 月の 4 か月間に 16 件の届出があった。血清型別では、O-157 が 14 件と最も多く、次いで O-121 が 3 件、O-111 が 2 件、O-26、O-165 が各 1 件であった。年齢別では、20 歳未満が 13 件と 62%を占めていた。

(2) 後天性免疫不全症候群

18 件の届出があり、前年の 8 件から増加した。このうちエイズが 3 件、HIV 感染者が 15 件であった。

性別では、すべて男性であった。年齢別では、20 歳代から 30 歳代が多く、15 件と 83%を占めていた。感染経路は、性行為によるものが 16 件とほとんどを占めており、同性間が 12 件、異性間が 4

表 1 全数把握対象疾患の届出数（2007 年）

類型	疾 患 名	届出数
二類	結核	175
三類	細菌性赤痢	12
	腸管出血性大腸菌感染症	21
四類	つつが虫病	10
	日本脳炎	1
	マラリア	2
	レジオネラ症	8
五類	アメーバ赤痢	8
	ウイルス性肝炎	3
	急性脳炎	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2
	後天性免疫不全症候群	18
	ジアルジア症	2
	梅毒	1

件であった。

(3) 細菌性赤痢

12 件の届出があり、前年の 2 件から増加した。このうち 8 件は同一施設内における集団感染であった。菌型は 11 件がソクネ 相、1 件がフレキシネル 2a であった。また、4 件は渡航先での感染と推定された。

(4) つつが虫病

10 件の届出があり、前年の 2 件から増加した。月別では 11 月の 5 件が最も多かった。1 月の届出も 4 件と多かったが、発病時期はすべて前年の 11 月であった。年齢別では高齢者が多く、60 歳以上が 8 件と 80% を占めていた。

2 定点把握対象五類感染症

(1) 週単位報告疾患

インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点及び基幹定点から毎週報告される 21 疾患の報告数を表 2 に示した。年間の定点当り累積報告数は、感染性胃腸炎の 382 人が最も多く、続いてインフルエンザ 261 人、水痘 73.3 人、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 67.7 人、ヘルパンギーナ 39.3 人、突発性発しん 35.7 人、流行性角結膜炎 33.3 人、咽頭結膜熱 27.0 人、マイコプラズマ肺炎 21.3 人などとなっている。年間の推移に特長が認められたインフルエンザ、感染性胃腸炎、麻しん（成人麻しんを除く）及び R S ウイルス感染症について、広島市と全国における週別の定点当り報告数の推移を図に示した。

a インフルエンザ（鳥インフルエンザを除く）

年間の定点当り累積報告数は 261 人で、前年の 209 人と比べ前年比 1.24 とやや増加した。18 年 / 19 年シーズンは、19 年第 3 週に定点当り 1.32 人と例年よりやや遅れて流行期に入った。流行のピークは 19 年第 11 週（定点当り 29.0 人）で、その後減少が続き、第 20 週に定点当り 0.51 人とほぼ終息状態となった。ピーク及び流行終息の時期も例年より遅かった。

b 感染性胃腸炎

年間の定点当り累積報告数は 382 人で、前年の 547 人と比べ前年比 0.69 とやや減少した。年間の累積報告数は、小児科定点患者総数の 57.4% を占め、小児科定点報告対象疾患の中で最も多かった。

年初から増加傾向で推移したが、第 6 週に定点当り 12.0 人のピークを迎えたあとは減少傾向となり、夏季は低い水準で推移した。その後、第 44 週ころから増加が始まり、第 51 週に定点当り 20.5 人のピークを迎えたが、第 52 週は減少した。

c 麻しん（成人麻しんを除く）

年間の定点当り累積報告数は 1.27 人で、前年の 0.12 人と比べ前年比 10.6 と大きく増加した。

4 月の下旬（第 17 週）ごろから増え始め、ゴールデンウィーク明けの 5 月中旬から下旬にかけて多くなった（第 20 週から第 22 週）。その後、徐々に減少し、第 41 週以降は報告はなかった。

以前は、患者の年齢は、0 歳児を除くと年齢が低いほど多くなる傾向にあったが、2007 年は小児科定点からの報告であるにもかかわらず、10 歳代、20 歳代の患者が多いことが特徴であった。

d RS ウイルス感染症

年間の定点当り累積報告数は 12.2 人で、前年の 10.8 人と比べ前年比 1.12 とやや増加した。年初から減少傾向で推移し、第 13 週から第 47 週にかけては、ほとんど報告はなかった。第 48 週ころから増加が始まり、第 51 週に定点当り 2.33 人のピークを迎えたあと減少した。

2 歳以下の乳幼児が全体の 88.0% を占めていた。

(2) 月単位報告疾患

月単位で報告される定点把握五類感染症（性感染症定点から報告される性感染症 4 疾患及び基幹定点から報告される薬剤耐性菌感染症 3 疾患）の報告数を表 3 に示した。

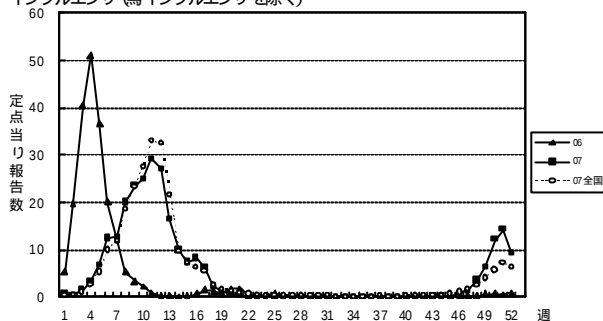
a 性感染症

性感染症 4 疾患のうち、年間の定点当り累積報告数が最も多かったものは、性器クラミジア感染症の 33.0 人で、次いで淋菌感染症の 26.9 人であった。性器ヘルペスウイルス感染症と尖圭コンジローマを加えた性感染症 4 疾患の総数は、前年比 1.55 と増加した。

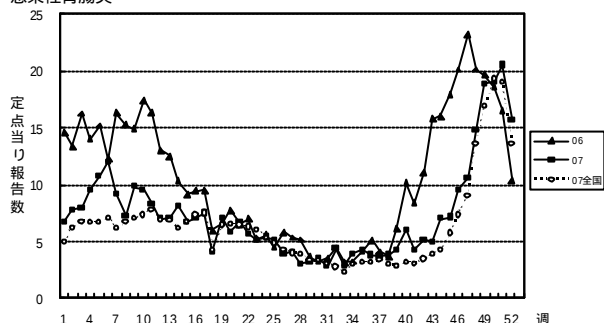
b 薬剤耐性菌感染症

年間の定点当り累積報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が 71.4 人と最も多く、次いでペニシリン耐性肺炎球菌感染症 7.27 人、薬剤耐性緑膿菌感染症 2.44 人の順であった。薬剤耐性菌感染症 3 疾患の総数は、前年比 0.83 とやや減少した。

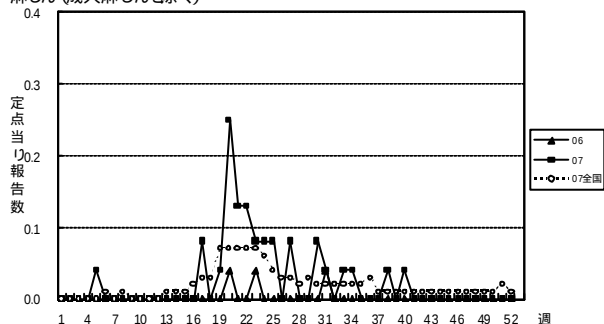
インフルエンザ(鳥インフルエンザを除く)



感染性胃腸炎



麻疹(成人麻疹を除く)



RSウイルス感染症

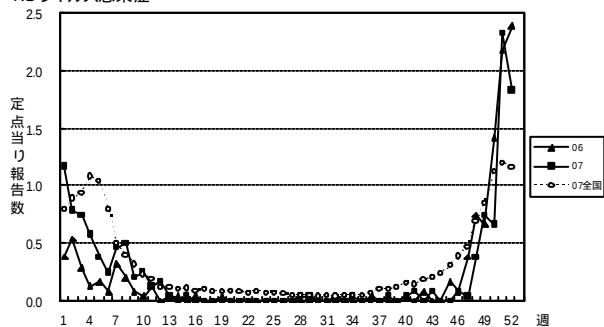


図 定点当り報告数の週別推移

表2 定点把握対象五類感染症患者報告数

(週単位報告分)

(2007年)

疾患名	報告数 ()内は定点当り 累積報告数
インフルエンザ(*1)	9,667 (261)
咽頭結膜熱	645 (27.0)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,624 (67.7)
感染性胃腸炎	9,152 (382)
水痘	1,757 (73.3)
手足口病	452 (19.0)
伝染性紅斑	268 (11.3)
突発性発しん	856 (35.7)
百日咳	28 (1.14)
風しん	7 (0.28)
ヘルパンギーナ	938 (39.3)
麻疹(*2)	31 (1.27)
流行性耳下腺炎	186 (7.77)
RSウイルス感染症	292 (12.2)
急性出血性結膜炎	8 (1.04)
流行性角結膜炎	264 (33.3)
細菌性髄膜炎	8 (1.12)
無菌性髄膜炎	17 (2.43)
マイコプラズマ肺炎	148 (21.3)
クラミジア肺炎(*3)	1 (0.14)
成人麻疹	5 (0.71)

(*1)鳥インフルエンザを除く

(*2)成人麻疹を除く

(*3)オウム病を除く

表3 定点把握対象五類感染症患者報告数

(月単位報告分)

(2007年)

疾患名	報告数 ()内は定点当り 累積報告数
性器クラミジア感染症	297 (33.0)
性器ヘルペスウイルス感染症	146 (16.2)
尖圭コンジローマ	95 (10.6)
淋菌感染症	242 (26.9)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 感染症	500 (71.4)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	51 (7.27)
薬剤耐性緑膿菌感染症	17 (2.44)